

4

貴族社会の発展

① シルクロードにつながる道(奈良の都と天平文化)

(1) 平城京…奈良につくられた新しい都。平城宮を中心に寺院や住居が立ち並ぶ。市では各地の産物を売買。

(2) 奈良時代…平城京を中心に政治が行われた時代。

(3) 駅…都と地方を結ぶ道路に設置。乗りつぎ用に駅馬。

(4) 地方の支配…東北に多賀城、九州に大宰府。

(5) 遣唐使…唐にたびたび派遣。唐の文化や制度を伝える。僧の鑑真は失明しつつ来日し唐の仏教を伝える

(6) 天平文化…国際色豊か。→インドや西アジアの影響。

① 聖武天皇…仏教の力で国を守ろうとして、国ごとに

國分寺・國分尼寺、都に東大寺を建てる。(→①)

② 書物…古事記」「日本書紀」「風土記」「万葉集」など。

② 木簡と計帳は語る(律令制下の人々の暮らし)

(1) 貵族の生活…朝廷から給与。税は免除される特権。

(2) 身分…良民(公民)と贱民(奴婢など)に分けられる。

(3) 班田收授の法…戸籍に基づき6歳以上の男女に口分田

6年ごとに作成を与える。農民には税や労役・兵役の義務。(→②)

(4) 社会の変化…鉄製農具が広まり、稲の収穫量が増加。

荒廃する田が増える一方、人口増加のために耕地が不足。

(5) 墾田永年私財法…新たに開墾した土地の永久所有を認める。→貴族、寺院、有力な農民が開墾を進める。(→莊園へ)

③ 望月の欠けたることもなしと思えば(平安の都と摂関政治)

(1) 平安京…桓武天皇が政治を立て直すため京都につくる。

(2) 平安時代…鎌倉幕府が開かれるまでの約400年。

(3) 東北支配…坂上田村麻呂を征夷大将軍に任命して派遣。

(4) 国司…地方の政治を任せ、自分の収入を増やす。

(5) 莊園…中央の貴族や寺社の所有地で大きな収入源とな

る。→朝廷や国司はしだいに認める。

(6) 藤原氏…娘を天皇のきさきにして朝廷の実権を握る。(→③)

(7) 摂関政治…天皇が幼いときは摂政。成人後は関白に就

任。藤原道長・頼通親子のときに全盛期。比叡山延暦寺

④ 「以呂波」から「いろは」へ(国風文化の誕生)

(1) 新しい仏教…最澄が天台宗、空海が真言宗をひらく。

(2) 国風文化…日本の風土や生活に合った文化。寝殿造の

住居や大和絵、かな文字で書かれた『古今和歌集』『源氏

物語』『枕草子』などが生まれる。

(3) 淨土の教え…阿弥陀仏にすがれば、死後は極楽浄土に

生まれ変わるという教え。→各地に阿弥陀堂ができる。

→平等院鳳凰堂が代表的

おもなできごと

630 第1回遣唐使が派遣される

710 都を奈良の平城京に移す

743 墾田永年私財法が出される

752 東大寺の大仏が完成

794 都を京都の平安京に移す

801 坂上田村麻呂が蝦夷を征伐する

804 最澄と空海が唐にわたる

866 藤原良房が摂政となる

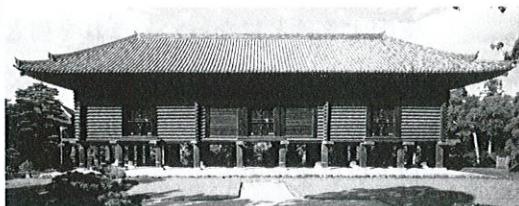
887 藤原基經が関白となる

894 遣唐使が停止される

1016 藤原道長が摂政となる

1053 藤原頼通が平等院鳳凰堂を建てる

① 正倉院と螺鈿紫檀五絃琵琶



② 東大寺の正倉院におさめられた美術工芸品には唐や新羅だけでなくインドや西アジア文化の影響も見られる。

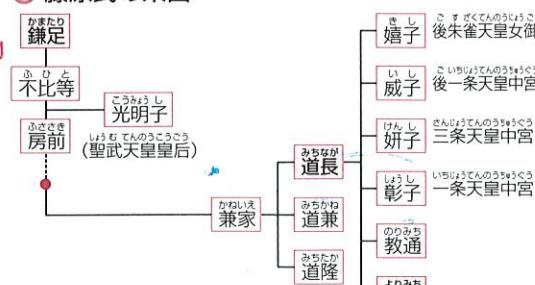


② 農民の負担 → 木は稻を表す

名 称	負担の内容
租	稲(収穫の約3%)
調	ぬの布や海産物などの特産物
庸	あさ麻布など(労役のかわり)
労役	雜徭(土木工事など年間60日以内)
兵役	衛士(都へ1年) 防入(九州北部へ3年)

① 調・庸は農民が都まで運ぶ。重い負担を逃れるため、口分田を捨てる農民も現れ、田が荒廃する原因に。

③ 藤原氏の系図



④ 藤原氏は娘を天皇のきさきにし、さらにその子を天皇にたて、朝廷の実権を握った。